



Title	大学入試センターの思い出
Author(s)	中村, 啓佑
Citation	Gallia. 2026, 65, p. 109-109
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104486
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大学入試センターの思い出

中村 啓佑

井元秀剛さんがご退職と聞いて驚いている。井元さんと懇意になったのは、今からもう30年前のことで、若手も若手、元気じるしそのものだった。ただ、井元さんの場合、驚くのは、今もあまり変わっておられないことだ。

もう30年も前のことだから、言っても良いのだろうが、大学入試センターのフランス語部会で、いっしょに問題作成にあたるという幸運に恵まれた。しかも、その年の委員は優秀な若手がそろっていて、委員長を務めていた私はずいぶん楽をさせてもらった。中でも、井元さんが、あの抜群のフランス語力と、エネルギッシュな言動と、どのような事柄にも積極的に取り組む姿勢で私をたびたび助けてくださったことは忘れられない。

50台半ばというのに、私は井の中の蛙で、世の中にあれほどフランス語のできる人たちが、しかも、同じ場に会するなど想像もできなかった。特に印象に残っている若手のお三人が、井元さんであり、後に中世フランス語の領域で立派な仕事をなさった松村剛さんであり、そして、立派な仕事を残し、惜しまれて亡くなられた平野隆文さんだから、少しでも良い問題を求めて沸騰する議論の情景は今でも記憶に鮮明だ。

中でも井元さんには、何となく頼みやすかった。皆さんもおわかりと思うが、井元さんが、頼まれて嫌な顔をするのをご覧になったことがあるだろうか。私の退職後も、小さなサークルで語学の話をお願いしたら、快く引き受けてくださった。振り返れば、していただいたことばかりであり、私が何かしてさしあげたという記憶がまったくない。かと言って、85歳の今となっては、どうしようもない。老人の不甲斐なさをお許し願うと同時に、この場を借りて、これまでのご厚情に心からお礼申し上げます。

間違っていたら許して欲しいが、イタリアでは、退職後の生活を黄金時代と呼ぶとか。井元さんには、ますます豊穡の生活が待ち受けていることを信じて疑わない。そして、私と同じくらいの年齢になっても、全身でエネルギッシュに語り、鉄棒にぶらさがって、クルクル大回転をしておられる姿が目につく。

(追手門学院大学名誉教授)